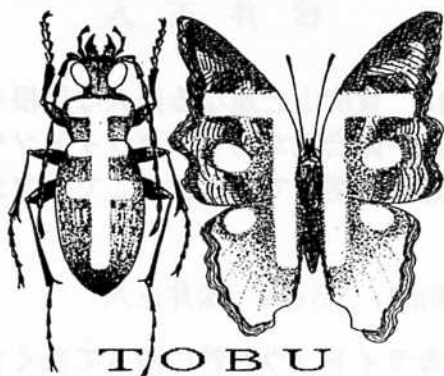




NO. 66

1987年 10月

百万石蝶談会

目 次

松井正人：白峰村砂御前山でゴマシジミを採集	2
澤田 博：金沢市医王山でムモンアカシジミを採集	2
澤田 博：医王山のヒメキマダラヒカゲについて	3
松井正人：白峰村小赤谷でギフチョウを確認	3
松井正人：ススキよりセセリ2種を採集	3
松井正人：メスグロヒョウモンを飼育して	4
吉村久貴：学校登山(白山でのクジャクチョウの目撃記録)	5
嵯峨井淳郎：八尾町白木峰にて	7
チョウキチホメ：立山に産する蝶の諸問題について	8
井村正行・中西重雄・松井正人：キベリタテハの前蛹と蛹を発見	9
細沼 宏：Self introduction	9
編集部：会員の動き・しゃぼの動き	10
編集部：例会の記録	12

短 報 11

ウラナミシジミ

1987年9月6日	富来町荒屋	1♂	松井正人
1987年9月20日	押水町宝達山ピーク	1ex	中西重雄
1987年9月20日	押水町紺屋	2exs	田辺幸雄

シータテハ

1987年8月16日	尾口村丸石谷	1ex	嵯峨井淳郎
1987年8月27日	白峰村白山釈迦林道	1♂	勝海雅夫
1987年9月20日	尾口村丸石谷	1♂	勝海雅夫

白峰村砂御前山でゴマシジミを採集

松井正人

白山より西方へ、釈迦岳、鳴谷山、砂御前山、青柳山と連なる長大な尾根がある。この砂御前山(1326m)の北側と東側に広い露岩地があり、カライトソウがある。東側の露岩地を、百合谷から続く山道が横切っており、ここでゴマシジミを採集した。

1987年8月8日 白峰村砂御前山(1200m) 6exs 松井正人

県内で確認されていた発生地りは谷底で、カライトソウも谷に沿ってたくさん見られる事から、これまでゴマシジミのポイントは谷沿いと思われていた。ところが近年、白山山系の三方岩岳から妙法山にかけての尾根筋でゴマシジミが確認されたため、視点をこれまでの谷から尾根へ向けたところ、今回の発見に至った。白山一帯にはカライトソウが多く、調査は谷よりも尾根が有利なため、今後多くの発生地が見つかると思われる。まずは尾根続きの3山が有望と思われる。

(1) 松井正人(1980) 白山のゴマシジミ, 翔(10):7-10.

金沢市医王山でムモンアカシジミを採集

澤田博

石川県のムモンアカシジミについては、既に報じられている¹⁾²⁾ように、白山周辺の尾口村、白峰村での記録を除いては、石川郡鶴来町の1例³⁾のみが知られているにすぎない。

筆者は、今年8月8日午後4時、金沢市医王山西尾平から、大池・トンビ岩へ続く林道の途中、通称「しがら首」で、リョウブの花に飛来していた本種を採集したので報告する。

1♂で、鱗粉はあまり落ちていないものの、後翅が破損していた。

当日は、くもりで風が強く、時折ガスが谷から吹き上げられるような状態であった。

その後、朝・夕と発生木をさがしたが、発見できなかった。

1987年8月8日 金沢市医王山 1♂採集 澤田博

参考文献

- (1) 松田俊郎(1984) 大杉谷にてムモンアカシジミを採集, 翔(48):1-2.
- (2) 松井正人(1984) ムモンアカシジミの記録, 翔(48):2.
- (3) 松田俊郎(1985) ムモンアカシジミ・獅子吼高原に産す, 翔(50):15.

医王山のヒメキマダラヒカゲについて

澤田 博

ヒメキマダラヒカゲは、白山や加賀主体山地に少くないが、金沢市内の記録は、地味で人気が無いせいも少なく、医王山の1例¹⁾が報告されているのみである。

筆者は、今年、医王山で何度か本種を目撃・採集しているので、報告する。

1987年8月9日 金沢市医王山しがら首 1ex目撃 澤田 博

1987年8月12日 金沢市医王山白元頂上 1ex目撃 澤田 博

1987年8月15日 金沢市奥医王 2exs²⁾目撃 澤田 博

採集した個体は、わりと新鮮であったが、目撃した個体の中には透けて見えるようなものもあり、先の記録が6月13日であったことから考えても発生末期であり、8月28日にも奥医王の同じ場所で数頭目撃したが、9月5日には見られなかった。

その他、金沢市甥杉(おとぎ)でも1頭採集しているので報告する。

1984年9月15日 金沢市甥杉 1♂採集 澤田 博

(1) 中西重雄(1983) 医王山にてヒメキマダラヒカゲを採集, 翔(35):2-3.

白峰村小赤谷でギフチョウを確認

松井 正人

白峰村赤谷川から小赤谷にかけてヒメカンアオイは分布しているが、ギフチョウについては調査されていなかった。

今年5月、赤谷川から小赤谷にかけて調査したところ、小赤谷の2箇所から1齢幼虫9exs(6exsと3exs)を確認した。

当地におけるギフチョウは食草の割に少ないと思われ、よく調査することにより下流の赤谷川からも発見されると思われる。尚、今年は少雪で、発生は例年より1月早かった様に思われる。

1987年5月31日 白峰村小赤谷 9exs(ヒメカンアオイ) 松井正人

ススキよりセセリ2種を採集

松井 正人

1987年7月8日、金沢市菱池で道端のススキより、コキマダラセセリの蛹とミヤマチャバネセセリの終齢幼虫を採集した。これらのススキは雑木林を抜ける、ややうす暗い車道脇に並んでいた。

コキマダラセセリは7月16日に1♀が、ミヤマチャバネセセリは7月20日に1♀が羽化した。

1987年7月8日 金沢市菱池 コキマダラセセリ 1蛹(ススキ) 松井正人
ミヤマチャバネセセリ 1幼(ススキ) 松井正人

メスグロヒョウモンを飼育して

松 井 正 人

金沢市近郊ではなかなか見られないメスグロヒョウモンも、能登では割と見ることができる。1986年9月23日もたまたま能登へ出かけ、富来町荒屋にて雌を得ることができた。本種の飼育は過去に蝶談会有志において成されているが、越冬段階で失敗している為、今回再び飼育を試みる事にした。

1. 強制採卵

1986年9月23日富来町荒屋で採集したメスグロヒョウモン1♀を用い、23日から10月7日(死亡)にかけて行った。容器は5号の植木鉢を用い、枯葉を半分程入れ、ネットをかけた。容器は室内に置き、日中は蛍光灯で照らした。母蝶には毎日ブドウ糖液を朝1回ないしは朝夕2回与えたが、10月5日よりカルピスを与えた。母蝶は24日に中脚が1本もげ、28日に初めて57卵産んだ時には残りの中脚ももげてしまい、その後は産卵しなかった。卵は枯葉、容器、ネットに産まれたが、枯葉が最も多かった。

2. フ 化

枯葉に産まれた卵以外は剥がし、総てタッパーへ移しフ化を待った。10月10日にフ化し、幼虫は総て枯葉裏に集まった。この時、台座を作っていた。フ化殻は食べられたものもあり、全く残されたものもあった。

3. 越 冬

57個体を12、15、30のグループに分け、それぞれスミレを植え込んだ植木鉢に枯葉ごと移した。15、30のグループはネットを被せ、10月12日に庭へ埋め、12のグループは観察用に、ネットを被せず軒下に置いた。(以後12個体の記録)翌2月15日、幼虫はそれぞれスミレの葉裏へと移動していたが、食痕は無かった。この時すでに9個体しか確認できなかった(3個体は行方不明)。その後観察の都度、幼虫の位置は変化していた。

4. 摂食開始

3月21日食痕が観察できた。幼虫は食痕の付いている葉にはいず、近くの枯葉や枯茎に静止していた。22日体色が変化した。4月2日4個体しか確認できない。5日庭へ埋めた植木鉢を掘りだすと、スミレがモヤシに成っており、ほとんどの幼虫が確認できず、わずかに45個体中4個体がモヤシスミレに食い付いていた。

5. 成 長

4月8日脱皮 2 齢 黒っぽくなる。

4月17日脱皮 3 齢 脱皮前に2日程休眠する。

4月22日脱皮 4 齢 頭部に最も近い突起が著しく長くなる。

4月30日脱皮 5 齢

5月8日より前蛹

5月22日より羽化

6.ふりかえって

今回の飼育は、強制採卵と越冬につまずいたが、摂食開始後の飼育はスムーズに進んだ。そこで強制採卵と越冬について少々述べてみたい。

(1)強制採卵

採卵中に中脚が2本共もげてしまった事から、ぶらさがりしかできず、産卵が不可能となった。また母蝶にはブドウ糖液を与えていたがカルピス(透明になるまで薄めた物)に変えたところ、体調を崩したのか2日後死んでしまった。こんな事から採卵数は伸びなかったが、それにしても少ないと思われる。ヒョウモン類は食草とは全く無関係に産卵することから、枯葉だけを用いて採卵を行った訳だが、採卵容器にスミレを植え込む事により、良い結果が得られたかとも思われる。

(2)越冬

今回の方法は、ギフチョウやオオムラサキの様に湿度を保ちながら逃げないように閉じ込めて越冬させたもので、掘り出す時期が遅れた場合の対応策としてスミレを植えたものだった。ところが幼虫は厳冬期が過ぎた暖かい日には、摂食はしないが食草を求めて動き回るらしく、庭に埋めた幼虫のほとんどは、スミレを捜して何処かへ消え去ったものと思われる。(一緒に植え込んだスミレはモヤシになり食草の値が無くなっていた。) 使用したネットは、ストッキングのお尻の部分で、かなり細かい網になっているが、幼虫は難なく通り抜けていることから、閉じ込める越冬はかなり難しいと思われる。

ところで観察用にネットも被せず放置したものが、ある程度(4/12)越冬に成功している。逃亡を考えずスミレと共に越冬させ、そのままスミレに食い付かせた方法である。今回は1/3の越冬だったが、工夫したネット(目が細かく透過性の良いもの)を使用すれば、逃亡や天敵を防ぐことができ、ある程度の越冬が可能に成ると思われる。

学校登山(白山でのクジャクチョウの目撃記録)

吉村久貴

クジャクチョウは、石川県では数の少ない蝶の一つである。筆者自身も、白山岩間丸石谷で1exを目撃しているだけである。本年(1986年)7月下旬に、生徒引率で白山登山をした際に、1exを目撃しているので報告しておく。

筆者の勤める県立野々市明倫高校では、今夏初めての試みとして希望者による白山登山を企画した。予想より参加者は少なかったが、生徒が約50名、引率の教員は筆者を含めて10名。白峰村の別当出合から砂防新道を登り、下山の際に南竜ヶ馬場に寄るといったコースであった。

7月28日朝9時に別当出合を出発。この辺りではゆっくり飛ぶアサギマダラと敏速に飛ぶアカタテハ、それにヒカゲチョウの仲間ぐらいしか蝶は見られなかった。11:00頃に甚ノ助ヒュッテに到着、昼食をとった。10名ぐらいの骨のある男子以外はすべて女生徒なので、のんびりなごやか、にぎやかといった登り

のペースだった。

甚ノ助ヒュッテ上部のお花畑へ出たが、雪解けが遅かったせいシモツケソウはほとんど咲いておらず、フワフワと翔ぶはずのErebiaも一頭も見当らなかった。更に砂防新道を黒ボコ岩へ向かう。小さな沢の流れているところでは、まだキヌガサソウやサンカヨウが白い花をつけており、やはり雪解けの遅さを示していた。

急な登りを過ぎて黒ボコ岩で大休止。辺りはガスがかかって真っ白で、何も見えない。ポツリポツリと雨粒が落ちてきたが、強く降る気配はなかった。黒ボコ岩を出発して20分ぐらいで室堂到着。14:30。

冷たいビールを飲んでいる間に一雨きたようであるが、いい気持になっていたのも全然気付かなかった。16:00には、またよく晴あがっていたので、生徒達は思い思いに散歩に出かけていたようである。

夕食後部屋に入ったが、思ったより登山者が少なく、ゆっくりと横になることができた。20:00消灯。一部屋を教員と男子生徒で貸切っているの、懐中電燈の下での酒盛りは更に続く。

酒を飲みつづけている年寄りを在中において外へ出てみたら、女子生徒達も20名程外に出て来て、一緒に空を見上げていた。天の川がはっきり大きくみえて、明るい一等星の間をいくつも流れ星が流れていって結構きれいだった。室堂の自然観察員のおじさんが、一等星の名前、星座の名前を一つ一つ説明してくれて、いい勉強になった。21:30には就寝。

7月29日は朝3:30起床。4:00に室堂センター前に集合して、御前峰目指して登る。4:50頂上に立った。10分ぐらいすると、北アルプスの方向から太陽が登ってきた。快晴のなかでの御来光。気持良いがやたら寒い。女子生徒の中には途中で休みすぎたために、御来光に間にあわなかった者もいたとか。お決まりのお池めぐりコースで室堂に戻った。6:30朝食。

7:30南竜山荘目指して展望コースを下山する。ここで隊長と呼ばれるI先生(50歳過ぎか?)の体長が悪くなって、隊は2分した。もう少しで南竜山荘というところまで来ると、正面に油坂の登山道がはっきり見えた。

一歩きしながらふと横のナナカマドを見ると、真っ白な花の上にタテハ科のチョウが止まって吸蜜している。良く見るとクジャクチョウであった。生徒達に教えようと指さすと、殺気を感じたのかパッと飛び立ってしまった。9:20南竜山荘到着。

快晴で吹いてくる風も涼しく、とても気持が良い。生徒達が靴をぬいで川に入ったりして遊んでいる間に、一眠り。昼食の弁当も南竜で食べた。

南竜山荘を11:30に出発。ひたすら下るだけ。13:00には別当出合に着いていた。更に工事箇所を歩いて迂回してバス停へ。来年こそは、車で別当出合に入れるようになって欲しいものだと思う。

1986年7月29日 石川郡白峰村白山南竜馬場 クジャクチョウ 1ex目撃

八尾町白木峰にて

嵯峨井淳郎

越中八尾町は、毎年9月1日から3日間に渡って繰り広げられる「おわら風の盆」で有名な所である。格子戸の美しいその古い町並みのたたずまいは、踊りを見に訪れる人々の心を魅了してしまう。

所用で1987年9月7日～8日、9月16日～17日の2回にわたり、八尾町の白木峰(富山県婦負郡八尾町切詰字大谷)へ行く機会を得た。目的はブナ帯に生息するムシetc.

このところ白山山麓は、神戸、京都、多摩、福井、富山、石川ナンバーの車がひしめくキベリタテハブーム。ひょっとすれば白木峰にもキベリタテハがいるのではないか、ゴマシジミは、ベニヒカゲは、そしてMM氏マーキングのアサギマダラを捜すこと、等と秘そかに心の中で期待して山頂まで足を踏み入れてみた。金沢より車でおよそ4時間弱。近くて遠いは白木峰。山麓にはウラギンシジミ、モンキチョウの大乱舞が見られ、標高1000mを越える辺りより白山湯ノ谷ヒメオオクワポイントに似てきて、各種ヤナギが大小見え隠れしてくる。枝の分岐に黒いカタマリが幾つか見え隠れし、これは良い所、帰りにガッポリ頂こうと思った甘い考えが、正しく甘い考え。翌日帰り途に、手中にしたクワガタは、たった3頭のヒメオオクワガタと1頭のアカアシクワガタであった。

その他目撃確認した蝶は、ヒメキマダラヒカゲ少々と種不明のセセリチョウ。シータテハ、エルタテハも記録はあるらしいが、それらしい姿を目撃しただけで未確認。アサギマダラは3頭目撃できたが採集できず。松井氏マーキングのものかどうかは確認できず、「再捕獲」という芸当は中々大変な作業であるということをつくづく痛感した。

白木峰山頂からの眺望はなかなかのもので、乗鞍辺りとは比較にならないものの、御岳、立山、白山と一応望むことができる。ゴマシジミが確実に産している人形山と一連につながっていることから、ゴマシジミはかなり期待できる。その要素として、山頂付近にはワレモコウが自生している。強風にあおられて先端の花穂が飛散しているのが一応気になるが、要緊急調査は間違いなし。

もう1点、北側のある斜面に、小さな黒紫色の花をつけたクロバナヒキオコシが一面に咲いているのを見つけたことができた。これも時期的には問題はあるものの、一応調査が必要。 ワレモコウ→ゴマシジミ クロバナヒキオコシ→オオゴマシジミ

蝶談会内には青い蝶にヨダレを流すのがたくさんいるから、来夏は白木ブーム。火付け役はS。それに乗じるのがM。悪乗りするのがY…。来年がほんとうに楽しみである。

1987年9月8日 富山県婦負郡八尾町白木峰 嵯峨井淳郎

ヒメオオクワガタ	2♂♂1♀採集	アカアシクワガタ	1♂採集
ヒメキマダラヒカゲ	2exs目撃	アサギマダラ	3exs目撃
モンキチョウ	多数目撃	ウラギンシジミ	多数目撃

立山に産する蝶の諸問題について

チョウキチホマレ

チョウキチホマレ久々の登場で～す。

標本を見ただけで目を吊り上げるのが、1人、2人いる。常々わずらわしい事だと思っているが、しかしよく目を開いて読んでもらいたい。傾聴に値することは間違いないだろう。

特に自然保護を念頭においていない人には、参考になるだろう。ここに書くことは当事者の了解を得たものと、得ていないものがあるが、いずれも蝶研究に役立つという意味合いから、当事者より許してもらえと思う。早期に調査を要することは相当以前より気がついてしたが、富山県という異常な場所柄、中々足を踏み入れることができず、今日に至ってしまった。

まず、ヒメヒカゲとウラジャノメについて。

産地は立山弥陀ヶ原。発見の経緯についてはチョウキチが「翔」編集人だった頃、例の「会員の動き・しゃぼの動き」に書いたつもりでいたが、どれだけ読み返してみてもこの件について載せた形跡が無い。当時、「会員の動き…」のネタがあり過ぎてボツったのか、職務怠慢から忘れたのか、いずれかであろう。当時のメモを読み返すと次の様に記録してある。

立山弥陀ヶ原における注目すべき蝶について

1982年1月15日 A氏よりTEL有。

1978年(S53)7月30日 ヒメヒカゲ 1♂確認(新鮮個体)
ウラジャノメ 2♂♂確認

立山弥陀ヶ原料金所右下小屋の裏手。

時期を遅らせて調査したほうが、良い結果が得られる可能性があるとの事。

(参考)長野県の産地では、標高1500m前後で8月中旬に多い。

このデータ提供者は、当時長野県松本市に住むA氏。外人連れの日立つ採集姿でO氏に逮捕された頃で、気の毒な話ではあるが、一方、このような快挙を当人は発表しない奥ゆかしさ。(もっとも概要については、名古屋か静岡だったかの有名昆虫誌に別人により掲載されているらしいが、チョウキチは調べる暇がなかった。)

もう1点、ゴマシジミについて。

チョウキチは、○年7月13日の採集データのついた、立山称名産と言われる真黒なゴマシジミの標本を1頭、秘そかに保管している。この標本は昭和40年

頃(1965年)、富山の〇氏より愚弟に恵与された(当時チョウキチは、まだ蝶はやっておらず、甲虫に情熱を注いでいた。)、たくさんの三角紙包みの中から見つかったもので、本人も覚えの無い疑問種である。(三角紙にはクロシジミと明記してあった。(しかしチョウキチ宅の標本箱には、真黒なゴマはピカーと光っている。))

その後、ワレモコウが弥陀ヶ原に存在することが分かったし、現に弥陀ヶ原と大日平で黒っぽい小型の蝶を数回目撃しているが、現認はしていない。

ここ10数年、立山に足に向けていないので、状況がかなり変化しているだろうが、気になる事を1つ2つ綴ってみた。

チョウキチより気になる方は、是非パトロール員の目を盗んで、これらの種の生息確認調査に挑戦して頂きたい。いや、このような意気込みのある勇猛果敢な開拓者精神旺盛な気骨の太い人に対し、いかな鬼のパトロール員も大目に見てくれる筈。それがなければ、富山の蝶学、いや日本全体の蝶学の発展は、あり得ないと確信してやまない。

キベリタテハの前蛹と蛹を発見

井村正行・中西重雄・松井正人

1987年8月16日、白山小桜平からの帰路、楽々新道においてキベリタテハの前蛹と蛹を発見した。

楽々新道は尾根道で、1800m付近にあるダケカンバ大木の幹より、まず前蛹を発見し、次いで蛹を発見した。幹の太さは30cm以上で、地上1mから5m位までの間に、前蛹11exs、蛹3exsが、あるものはめくれ上がった樹皮に隠れるように下がっていた。前蛹は黒っぽい為、白っぽい幹上では簡単に発見できたのに対し、蛹の色は良く似ており、前蛹の発見が無ければ蛹の発見も無かったと思われる。

Self introduction

細 沼 宏

自 宅	〒920-02	河北郡内灘町緑台2丁目2番地	☎0762-37-8471
血液型	A型	昭和22年生まれ	会社員

学生時代から蝶専門に採集してきましたが、最近は採集しても感激がなく、カミキリに転向しつつあります。採集はもっぱら国内専門で、今だ海外の経験はありません。しかも最近は日帰りのみの採集になりました。

8年程前からキシタアゲハに魅せられ、収集するようになり、現在プリアムスを集めています。一度、キシタ、トリバネの飛ぶ姿を見るのが夢です。

土、日はほとんど休みなので、採集旅行に誘って下さい。

会員の動き・しゃばの動き

7月5日田辺氏、中宮辺りでオオムラサキ多数を目撃。今度ゆっくり写真を撮ろうと思っていたらボツってしまった。

7月26日山本、勝海の2氏、白骨から乗鞍方面へ。オオゴマシジミの発生や、井村氏の出没を確認。

7月27日吉村氏、ムモンアカを求めて大杉谷へ。発生木の回りがきれいに刈られていたらしい。

7月29日松田氏、ムモンアカをビデオに納めんと百合谷、大杉谷へ。交尾個体も見られたが、遠すぎて9倍レンズでもいまいちだったとか。

7月29日吉村氏、白山スーパー林道ドライブのついでに妙法山まで足を伸ばした。ゴマ、キベリを目撃。

7月30日松田氏、沖縄撮影行への同行者をつのる。二人以上になると出発するらしい。1週間約10万程度。

7月31日吉村氏、八ヶ岳登山。クモマベニがハエのごとく飛んでいたらしい。

8月1日嵯峨井氏、家族サービスで戸隠、白馬方面へドライブ。実は…キシタバ狙いだったのだが、夜は大雨だったらしい。

8月1日山本氏、恐れ多き客人を案内して立山へ。弥陀ヶ原を移動中、雨に降られながらも度々飛び上がるミヤマモンキを観察。

8月2日山本、松井の2氏、客人と共に三方岩岳へ。野谷荘司まで歩いたところ、ベニ、アサギ、キベリに交りアチコチでゴマシジミが見られ、楽しい山行だったらしい。

8月3日吉村氏、2泊3日で後立山を走破。クジャクしか飛んでいなかったらしい。

8月6日山本氏、再び三方岩へ。アサマシジミを見たと言っていた。

8月7日嵯峨井氏、ムモンアカの調査。大杉谷では全く見られず、百合谷では新鮮な個体が観察された。

8月7日松井氏、釈迦林道でアサギマダラのマーキング。数が少なく1日かかって7♂♂にマークとか。

8月8日松井氏、砂御前山でゴマを採集。標高1200m付近の岩場にカライトソウがたくさんあるらしい。

8月8日澤田氏、医王山でムモンアカを採集。リョウブの花に飛来していたとのこと。発生木は不明。

8月9日山本氏、高山、久々野方面でゴマを採りまくる。

8月9日嵯峨井氏、ゴマを求めて砂御前山へ。大雨にたたられたもののしっかり採集。ついでにムモンアカまで採ってきた。

8月9日勝海氏、長野県狭しと彼女と500kmを走破。途中簡単な採集を繰り返したので彼女は膨れっぱなし。

8月10日山本氏、カロリーメイトを持って白山登山。2泊3日の予定。

8月10日吉村氏、2泊3日の予定で霧ヶ峰へ出発。生徒の付き添いとかで旅費のいらない採集行とか。

8月13日山本氏、2日の予定で中国地方へ。ゴマを漁りに行くらしい。

8月13日勝海氏、ゴマを求めて砂御前山へ。新たなポイントを発見したらしく、多数採集。

- 8月14日金子氏、岩間にてライトトラップ。今夏初の点灯とかで、ナマリを期待。
- 8月14日中西氏、親子3人で小桜平へ。2泊3日の予定で休暇。
- 8月15日吉村、吉岡コンビ、丸石谷へ。キベリを採っていると嵯峨井氏がやってきたらしい。
- 8月15日松井氏、小桜平へ。ここをベースにカライトソウを探すらしい。
- 8月16日井村氏、小桜平へ。雲上の3者会談が開かれた模様。
- 8月16日丸石谷はキベリ日和。竹谷、松田の両氏はのんびりカメラを構え、吉村、嵯峨井の両氏は軽やかに網を振った。
- 8月16日山本氏、木曽駒高原でやっぱりゴマ漁り。好きですねえ！
- 8月22日松井氏の所でツヤハダとマダラクワガタが羽化している。昨年荘川村で採幼したものだが、マダラはどうも偶然らしい。
- 8月22日井村、山本コンビ、市の瀬付近でライトトラップ。釈迦林道はゲートが閉じていて入れず。夜間は閉まるらしい。
- 8月23日釈迦林道カライトポイントでベニヒカゲが採れているらしい。湯の谷左岸は特別保護地区なのでくれぐれも御用心。
- 8月27日勝海氏、釈迦林道へ。キベリが飛来する樹液を見つけ、難なく2ヶタ。他にシータ、クジャク、ベニとアサギマダラの集団吸水とか。
- 8月27日嵯峨井氏、敦賀辺りで燈火の見回り。往復高速を使った割に、成果はゼロ。何を採りに行ったのだろう。
- 8月29日田中氏、ウマノスズクサを探して子浦川へ。見つからず困っていると、何処からか現れたジャコウアゲハが教えてくれたらしい。
- 8月29日松田氏、ビデオを抱えて白山登山。クジャクがお目当てだったが、ボロのベニしかなかった。エコーラインにカライトソウがたくさんあったらしい。
- 8月29日金子氏、岩間でライトトラップ。
- 8月29日井村、中西、松井の3氏、丸石谷でライトトラップ。松井氏は早々と6時に現地入りしたものの、幕しか持たず、ライトを持った井村氏が登場したのは8時半。中西氏は8時半金沢出発という有様だった。その結果は全くのスカ！！
- 8月30日ヒロコこと松井夫人、猛暑にダウン。スーパーギヤルも35度には勝てなかった。
- 8月30日吉村兄弟、シー、エルを狙って有峰へ。狙いは外れたものの、貴己氏は久しぶりの採集にキベリをネットイン。
- 8月31日田中氏、庭のゴマダラチョウが終齢に成ったらしい。3化は有るのだろうか。
- 9月2日小立野小学校の夏休み作品展を見学。体育館に全校児童の作品が並べられ、中に昆虫標本が3点あった。児童1100人中たったの3人、それも1、2年生となれば、このさき虫屋は心細いかぎり。
- 9月4日勝海氏、キベリに味をしめ再び釈迦林道へ。ところが営林署の査察とぶつかり、林道へは全く入れず。奥では派手にハッパの音が…。

9月4日山本氏とお酒を飲む会。
氏が7日より静岡市へ栄転となった
のを祝い(さかになに)、片町でお酒を
飲んだ。8名出席。

9月5日山本、嵯峨井の両氏、釈
迦林道へ。二日酔いで出遅れたせい
か、2組に先を越されキベリはさっ
ぱり。

9月6日釈迦林道もキベリの賑わ
い。丸石谷が通れないらしく、たく
さんの虫屋が集まった。井村、中西
の常連組、連チャンの嵯峨井ファミ
リーと神戸の軽4ペア、更には福井
の下野谷ペアとくれば、釈迦林道も
有名になったものです。

9月6日松井氏、宝達山へ。やっと
アサギマダラに会えたらしく、6exs
にマーキング。交尾個体も観察でき
たらしい。

9月6日勝海氏、彼女と白山スー
パー林道をドライブ。峠から遊歩道
を仲良く歩いていると、キベリがあ
ちこちで顔を出し、気が散って口説
きの言葉も浮かばなかったらしい。

9月13日宝達山、アサギマダラの
群れ飛ぶ中、松井氏はマーキング、
嵯峨井氏は、夫婦で冷やかに。

9月13日井沢氏よりTELあり。7、
8、9月と栃木県の日向博物館へ飯
炊き人夫に行っていたとか。また行
くらしい。

9月14日松井氏、アサギマダラ安
産の知らせに驚喜。飼育8日目にし
てやっと産卵したらしい。

小幡氏、イラガセイボウに魅せら
れ、そのうち寄生されないかとイラ
ガを飼っている。知らない家族は、
刺されていていい迷惑。

例会の記録

8月7日(金)城南管工2Fにて8
時より12時まで開催。松田氏ご自慢
のビデオを見ながら、白山のムモン、
ゴマに話が集中。中でもムモンポイ
ント草刈り事件が謎を呼んでいた。
また、カミキリ、雑昆虫の同定会も
行われ、オオチャイロの試臭会も行
われた。

会員の主な話題は、カミキリ同定
して下さい(細沼)。6月の医王山に
シータテハがたくさんいた?(田辺)。
大杉谷ムモンポイントは草刈りされ
ていた(嵯峨井)。エノキとエゾエノ
キの見分け方は(井村)。妙法山は遠
かった(吉村)。富沢氏が「白山ブナ
帯の蛾」を自費出版(竹谷)。雑昆虫
同定して下さい(近藤)。「井村さん
とヨコヤマヒゲナガを採る会」を開
こう(中西)。三方岩から妙法のゴマ
は全て岐阜県産(松井)。採集許可証
はどうすれば手に入るか(山岸)。医
王山にムモンアカはいないか(澤田)。
沖縄ツアーは2名から、ただ今1名
(松田)。里ゴマたくさん採りたいよ
(勝海)。参加者は中西、田辺、小幡、
山岸、松井、嵯峨井、松田、竹谷、吉村、
近藤、井村、細沼、澤田、勝海の14名で
した。

とぶ NO.66 1987年10月2日発行

編集 松井 正人

発行 百万石蝶談会

事務局 金沢市大場町東871の15

松井 方

〒920-01 ☎0762-58-2727

郵便振替(金沢)5-562

印刷 小西紙店印刷所

北町丁5の1 ☎31-5379